

むつ市地域公共交通活性化協議会
平成24年度第2回川内地区分科会
会 議 概 要

(平成24年5月31日)

1. 日 時 平成24年5月31日(木) 開会 午後1時30分
閉会 午後2時50分

2. 場 所 川内庁舎1階 談話室

3. 出席者

委員

上 山 壽 郎 委員	徳 直 義 委員
片 岡 孝 一 委員	岡 村 昇 委員
岡 崎 秀 夫 委員	笹 沼 正 悦 委員
橋 本 敬 司 委員	八 戸 敏 久 委員

事務局

布 施 恒 夫 川内庁舎所長	松 本 大 志 川内庁舎管理課長
吉 岡 実 川内庁舎管理課総括主幹	
高 橋 聖 市企画調整課長	吉 田 和 久 市企画調整課総括主幹
岩 瀬 圭 吾 市企画調整課主任主査	

4. 欠席者3名

中 村 巧 三 委員	板 井 弘 巳 委員
野 里 岩 雄 委員	

1. 開会

(事務局：岩瀬主任主査の進行により、以後、会議の進行は高橋企画調整課長が進める。)

2. あいさつ

(企画調整課長)

前回の分科会でお話させていただきましたが、現在、湯野川線は今年8月までの一年間の試験運行で動いております。市としてはこれを継続してもう一年試験運行をしたいと考えております。ただし、試験運行を再度行う場合には、時間の変更もしくはコースの変更が伴わなければならないこととなっています。

今回はその変更について事務局から提案させていただきます。ただし、今年9月以降の1年間で、再度試験運行を行ったとしても1年後の今頃には、再びその後どうするのか検討していかなければなりませんので、引き続き川内の交通に関する分科会につきましてよろしくお願ひしたいと思ひます。

3. 案件 「川内～湯野川線」の路線変更について

(事務局説明)

- 第1回川内地区分科会の内容について次の点について確認と説明を行った。
 - ・むつ市地域公共交通活性化協議会の下部組織として川内地区分科会を設置したこと。
 - ・「川内～湯野川線」の現状（平成24年8月31日が免許の期限であること）。
 - ・現状のまま、路線を維持することは難しいこと。
 - ・第1回川内地区分科会で出された意見としては、「路線は維持して欲しい」「買い物客の取り込み」「市営住宅付近の住民の取り込み」等であること。
- 「川内～湯野川線」の路線変更案について、配付資料に基づき次の点を説明した。
 - ・起点、終点を「まちなか」から「マエダ経由」で「榎木団地」としたい。約900mの延長となる。
 - ・バス停は、マエダの駐車場内と市営住宅榎木団地の2カ所に設置する。
 - ・今後の流れは、今日の会議で変更案について了承いただければ、分科会の上部会議となる「むつ市地域公共交通活性化協議会」に本件を諮って、そこで協議が整った後に事業者から運輸局への申請となる。申請後、約1ヶ月で許可があり、今年9月から再度1年間の試験運行となる。

(事業者説明)

○変更案の補足説明

- ・「マエダ」については、ATMの利用も考えられ、安全上、店舗敷地内への乗り

入れが望ましい。

- ・運賃については、「まちの駅」から「榎木団地」間で130円と考えている。
- ・「まちの駅」～「榎木団地」間は実際の所3分もあれば運行できる。
- ・街中の人にとっての利用価値も高めたい。バスだけで、買い物や通院を済ませることは難しいが、片道だけでも利用していただきたい。

以下、意見交換

(委員)

料金は、今までと変わらないのか。

路線が延びた分について加算はあると思うが、今までの部分については。

(事業者)

「湯野川」～「まちの駅」間は同じ金額で、延長分がプラスとなる。

(委員)

前回も話題となったが、1便はほとんど診療所を利用するお客ということでこの時間帯。マエダまで延ばすことは理解するが、マエダの10時開店後、2便の湯野川行き出発まで2時間40分くらいあるが。

(事業者)

1便に関してはあくまで現状のままで、山崎整骨院とかATMとマエダに限らず、その他の用事でもお客さんに利用していただきたいと考えている。

(委員)

ATMと整骨院はともかくとして、湯野川に向かうバスについてである。

1便で病院、診療所に来たり、マエダに足を延ばして買い物をする。整骨院もあるでしょうけれども、次の湯野川行きの12時45分まで待たなければならない。

ここの部分は何も直ってない。

(事務局)

前回も話が出ておりましたけれども、便数を増やすのは難しいと。JRへの接続という部分でも、今まで川内交通さん時代からやってきた中で、落ち着きどころとしては一番いいところではないかということで時間等は変えておりません。

(委員)

ただ川内に来て、診療所に来て買い物をして帰るのにはあまりにも時間に幅がある。買い物をしてもここで2時間待たなければならないことを理解して欲しい。

(事業者)

往復バスを使うかたちはやはり無理だと思います。どちらかを使ってもらうかたちにどうしてもなってしまうと思います。利用の目的も買い物、診療所だけではないと思

ますし。

(委員)

この時間帯は2時間以上あるから、そこら辺は何とかということをお前回話したんだけど。今、この時間帯を見れば、何も変わっていない。色々業者の都合もあってこうということになったと思うが。それならば一人でも多く利用して欲しいと話が出るけれど、メリットは無いのではないかな。

(事業者)

時間に関しては以前に11時台のバスを出してみたり、14時台を出してみたり、色々試行錯誤して何年もやってきた中でこの12時台がベストだということで前回もお話させていただいたところです。

(委員)

「何とか1人でも多く利用者を確保できるようお願いします。」とのことだったが、時間帯が何も変わってなければ、今まで通りの乗客しかみられないのかなということである。1時間くらい変わってれば「時間変わりました」「便利になったよ」という言葉も出てくるけど、時間帯が変わってないで、買い物にも病院でもということであれば、我々としては、1人でも多く乗客をとということでの案は出てこない。

(事業者)

11時台に関しては、間に合わない人がどうしても出てしまう。

(委員)

間に合わないのは、配車の関係か。

(事業者)

お客さんが診療で間に合わない。

バスを13時50分台、14時台で一時期出したことがあるんですけども、病院に来た方は14時では遅すぎるという話で、2便に関しての時間帯を色々試してはみたんですけど、アンケートを取ってみたり色々な意見の中で、12時台であれば、むつから来る人もかろうじて乗れる場合もあるとか、買い物するとこれだったら帰れるとか、そういった中で出した時間ということなんです。

色々な時期があって、例えば夏場はこの時間帯多かったり、冬場になれば乗らなかったりと、色々な中でのベストな時間として、今までこの時間で運行してきました。

(委員)

例えば银杏木の人たちが待ってられないので、診察が終わる又は川内まで来て用事が終わったら、3、4人組んでハイヤーで帰っていることを聞いている。

それよりも遠い湯野川、畑の人たちはどういう利用をしているのか？

今みたいに2時間も3時間も待って、それでも2便を利用して帰っているのか？

(委員)

時間があれば川内の診療所から、時間つぶしと自分の運動のためにも歩いてマエダまで来て買い物をして12時45分のバスに乗っているとも聞いている。

実際時間の関係ということになれば、それぞれで内科にかかる人もあれば、二つの科にかかる人もいる。畑地区ではそういう人たちが多くようで、タクシーには、ほとんど乗らないという話も聞いている。

色んな事情ひとつひとつ探るのであれば、それらをまとめることは難しいと思う。

(事業者)

9月から再度試験運行という形なので、運行しながら、現実に乗ってる人の声を聞いていければと思っています。そのための一年でもいいのかなとは思いますが。

それから来年、この意見が多かったから、この路線で今度申請してみましようかと話に進んでいくかたちが一番いいと思います。

今までも一応アンケートとか取ったことありますが、むつ病院辺りに行って、マエダとかで買い物して5時のバスに合わせて帰ってくるって人もいました。帰れる時間のバスに合わせて帰ってくると。

往復乗ってもらうのは難しいと思います。

(委員)

畑地区で相談したが、今現在は運転できるけれど、あと何年か経てば高齢者になって運転できなくなり、自分たちがバスに乗らなければならない時代がもう目に見えているので、絶対このバスをストップさせることは出来ないという意見が多く出ました。だから、時間的に個人によっては待ちが長くなったり短くなったりというのはあるだろうが、止めない方向で考えていきたい。これで試行してもらいたいという気持ちです。

(委員)

存続の気持ちは十分にある。あくまで、意見として代弁しているということを理解していただきたい。

(企画調整課長)

これまで色々試行錯誤した中で落ち着いてきたラインがここである。

2便に関して、早い人遅い人両方確保するにはやはり若干遅めの時間でないと両方を掴めない。

前は11時台というのもあったとのことですが。

(事業者)

一時期ありましたが、逆に使えない人が増えてしまいました。その頃は4条という路線免許でやっていたので冬季時刻の12月までそれでいくしかありませんでした。苦情ではないが、11時は全然使えないという話がありました。

その後にJRバスが13時50何分に到着があったんで、今度それに合わせて14時台に湯野川方面に出発する便を出したんですけど、逆に診療所のお客さんが14時までには待てないという話で、じゃあどこに標準を合わせるかという中でやはり診療所が終わって、みんな乗れるのがだいたい12時半前後であればなんとか拾える。それ以降どうしても間に合わない場合は買い物したり最終的に5時に帰るとかそういう手段をとら

ざるを得ないといえますか。ですのでやはりベストは12時台～13時ぐらいということでここ何年かはこの時間帯でやっています。

(企画調整課長)

色んな声を聞きながら決められてきたのが今の現状なので、やはりもう一回全部戻して3便考えたとしても結局戻るのはここなのかなというふうに思いましたけど。他の地域の人どうですか？

(委員)

今のこの時間帯であれば帰る時にもし時間早くなった時にはここに来て買い物して待つ、マエダから乗っていく。そういうことも出来る時間じゃないかなと。

(委員)

今の話は、路線廃止のための論ではないので。

畑・湯野川は冬になると陸の孤島だという状態で、今の路線は地区にすれば、本当に足になっている。

(事務局)

今回の変更は、人員、バスを現行体制のままで維持する方法はないかという話です。

今回延長したのは、街中の人たちに何とか利用してもらえないかなというところが一つの主眼です。青銀さんが撤退して、マエダまで行かないとお金をおろせないということもあるので、街中の人たちに片道でも使ってもらえればありがたい。

どちらかでバスを使ってもらって、どちらかをタクシーで乗合でみんなでお金出し合って帰るというかたちしか出来ないと思います。

各地区が支えていくというよりも川内の町全体で支えていくようなかたちにしていかないと路線を維持できないと思いますので、もうひとつ延ばしたというのを理解していただき、ご協力をお願いしたいと思います。

(委員)

市政だよりか何かでPRするんですか。

(事務局)

川内地区だけに市政だよりへの折り込みを考えています。

(企画調整課長)

掘り起こしではありませんが、会長さん方も何とか一月に1回でもご利用を。

(委員)

居住しているというこれが運命だと思って、月1回くらいは利用しようか。

(事業者)

診療所、ふれあい温泉に片道だけでもバスで行くとか周知してもらえれば使う人も増えるかと思います。この辺の人にしてみれば、自分たちはこのバスに乗ることができな

いという感覚的なものがあるようです。市役所で、周知してもらえらば「病院に行くのに使える」とか「仲崎地区だったらマエダに行ける」とかPRするしていただけると助かる。

(事務局)

バスに「むつ車体工業」という会社名がありますが、この辺ではあまり馴染みのない名前であるためか、川内の人は乗ることができないと思ってる人が多かったようです。

今、川内交通の会社整理が終わったようで「川内交通バス」という表示になってるようです。

(委員)

ふれあい温泉とタイアップするとか。

(委員)

赤字経営だというのはわかるんですけど、むつ車体さんとして、どの辺まで路線維持を考えていますか。

(事業者)

社長はやるべきと話していますが、もちろん、収支を度外視してやるという話ではありません。何らかの努力をして収支を少しずつでも上げていくようにということです。

現状ではやるべき路線だし、残すべき路線でしょうという段階です。

(委員)

例えばの話だけど、万が一、むつ車体さんが撤退した場合、むつ市でやるんですか？

(企画調整課長)

それはありません。

(委員)

この路線はなくなるということですか？

(企画調整課長)

大畑地区の例では、薬研線で路線バスが無くなった後、半年くらいバスとか無かったんですが、今はデマンドタクシーというのを動かしています。

(事務局)

今、大畑でやっているデマンドタクシーは、運行数8便です。22年に始めたときは6便でした。住民の方と意見を交換しながら去年7便にして今年度8便にしています。バスは最終的に1便でした。

(委員)

3便の時間が何でこんなに遅いのか？

(事業者)

川内校舎の部活に参加する高校生が湯野川方面に帰れないのはまずいということで。ホームルームが終わった後の時間帯と一般の企業に勤めている人が乗れる時間帯として設定しているのが5時10分です。

(委員)

朝に診療所に来る時間をもう少し遅らせればいいのでは。朝病院に来る人はかなり多いので。

(事業者)

朝早くすれば最終を早くしないといけない。人員が今1人で収まっているのが、上下で2人つけなければならないとか、拘束時間の問題もある。

以前は田名部行きはJRさんに合わせるために6時台に出発してたんですけど、この頃はまだ最終終わるのも6時半なんで1.5人とか人数配置していたんです。やっぱり抑えるのは人件費なので時間を調整してなんとか1人で回せるように。

湯野川発が8時20分、始発の川内が7時50分なんです。これに合わせて会社への出勤時間が6時30分です。車庫出庫が6時40分でこっちで時間調整して出発して最終終わって車庫に帰って来るのが19時10分くらいかな。この時間がギリギリ1人で対応できる範囲と考えています。

(委員)

これだけやるだけのことやってだと、仕方ないな。

(川内庁舎管理課)

会社の方針かもしれませんが、職員がむつままで通勤してそれからバスを持ってきてるようだが、川内にバスを置くことはできないんですか。

(事業者)

今の時点では、それは不可能です。

高速バス事故のニュースでよくやっていますけど、対面点呼をして、その日の健康状態やら酒気帯びやら全部点検してからバスを出庫させるのが義務づけられています。

川内を営業所的な形にしていくという方向で進めています。

(事務局)

他に何かありませんか？

全てがこれで納得ということはないと思いますが、一応今年の9月1日から1年間は、この案でやっていくということで、よろしいでしょうか。

公共交通活性化協議会に諮ってOKということであれば、申請という流れでいきますのでよろしくお願いします。

(委員)

これでずっと運行していくのか？

(企画調整課長)

この1年間しか期間延長できません。

(委員)

来年はもう試行ではなくなるということですね。

(事業者)

4条許可という路線バスの許可を申請して許可を取って運行するしかなくなる。

(事務局)

あくまでも1年間だけの試験運行ということですよ。

(委員)

前回は聞いたと思うけど、バスの大きさの割に人が乗っていないのでは？

(事業者)

年金の支給月や、整形の診察があるときは結構乗っています。1ヶ月分を1日で売り上げることもあります。

小型化して経費を抑えるのも確かにあるんですけど、そういう時だけ大きい車両を使うということにはできないことになっています。

(委員)

バスに乗るときに、介護人が手を引っ張って乗せているのを見ることもあるが。

(事業者)

路線バスにステップを積んでいて、それを自由に使ってもらっている。先に乗った人が手伝ってくれることもよくあります。

(事務局)

今の地域のバス路線はどこも大変な状態で、住んでる人たちが自分たちで守っていかなければならないという状況ですから、乗客も一緒になって地域の足を守っていくんだという考え方をもって、ご協力いただきながら進めていければと思っています。

(午後2時50分終了)